

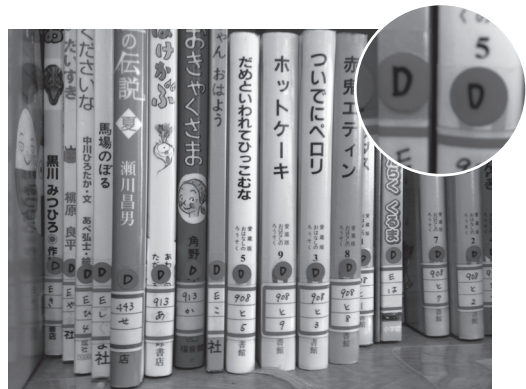
■特別支援学級のある学校図書館における実践事例

読みの困難を抱えた子どもへの 学校図書館での活用 —2年目の取り組み

島根県安来市立赤江小学校
井上 賞子

研究の目的

読みの困難を抱えていると予想される子どもたちに、マルチメディアDAISY図書を使った読書の環境を提案することで、本の世界を楽しむ体験を広げる。



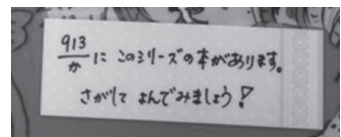
「この本はデイジーでも読めます」の「Dマーク」

学校図書館の環境設定

昨年度の準備（AMISの入ったパソコンを3台導入）に加えて、マルチメディアDAISY図書で読める本の書籍版や続巻を手に取りやすいようにした。



マルチメディアDAISY図書のすぐ側に、書籍版を並べる



シリーズのある本はわかりやすく表示

マルチメディアDAISY図書活用 の実態

(1) 対象

- 通常学級に在籍し、読みに困難を示す子（学習障害が要因として疑われるケース）

(2) 活用時間

- 学校図書館を利用した読書活動をする際
- 学校司書のいる休み時間

(3) 活用場所

- 学校図書館

子どもたちの様子や効果

(1) 共通して見られた姿

- 2年目に入り、「マルチメディアDAISY図書という読み方」があることが、子どもたちの中に自然なこととして受け入れられてきた。
- 「自分はこの方法だと読みやすい」という見通しを持って、最初から「デイジーで読みたい」という子ども、どの学年にも見られるようになってきている。
- 昨年度の実践から、「マルチメディアDAISY図書を窓口で書籍で読もうとする子どもたち」が出てくるのが予想されたので、書籍版や続巻を手に取りやすい環境にしておいたところ、多くの子どもたちが書籍版や続巻に興味を示した。



(2) Cさんに見られた姿

① マルチメディアDAISY図書導入前の様子

- 低学年の頃から読みに苦手さがあり、音読を避ける傾向が見られたが、学年があがり、少しずつ学習課題については自力で読んで参加するようになってきていた。
- 読みはたどたどしくなりがちで、読んでもらった時と自分で読んだ時とでは、理解の度合いに違いが見られた。
- 図書館はめったに利用せず、本を借りても読まずに返すこともあるようだった。
- 今年度、平和学習の一環として、原爆に関わる本が複数紹介されていたが、あまり読み込めていない様子だった。

② マルチメディアDAISY図書導入後の様子

- 今までは、あまりマルチメディアDAISY図書に興味を示さなかったが、司書さんが、修学旅行前とい

うことで自習時間に「ひろしまのピカ」をすすめてみたところ、夢中になって読んだ。

- 読んでいる途中で、「戦争はいけない。絶対にはいけない。なんでこんなひどいことが……」と、真剣な表情で感想を話していた。本の感想を口にしたり、読んでいる途中で思いを話しかけてくるというようなことがそれまでなかったので、対応した学校司書は驚いたと話していた。
- その後、以前より学校図書館に来る頻度が増え、借りた本について「これは面白かった」「これは読めなかった」など、感想を話してくれるようになった。

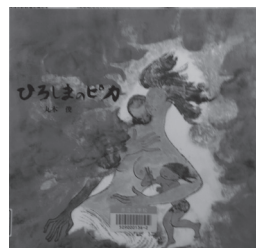
考察

Cさんについては、マルチメディアDAISY図書が「読み」のストレスから解放してくれたことで、書籍の内容に深く気持ちを重ねて行くことができたのではないかと考える。

- 日常、彼は「読むこと」そのものに、かなりたくさんのエネルギーを使っていると思われる。
- 必死で「読む」のに精一杯で、内容を深く読み取ったり、自分の思いを重ねて本の世界に浸ったりというところまで、なかなかいけずにいたのだろう。
- 今回、『ひろしまのピカ』をマルチ

メディアDAISY図書で読むことができて、彼にとっての平和学習は広がりや深まりを見せたと感じている。

- Cさんは、「話してもらえば理解できる子」であり、「自分の考えや思いは人一倍強く持てる子」である。そんなCさんだからこそ、「アクセスのストレスなく読む」体験を通じて、立ち止まって自分の内面と供応しながら「読み深めて行く」大切さを感じたのかもしれない。
- 『ひろしまのピカ』以来、Cさんの「読めそうだ」「読んでみたい」という思いが広がっているように感じている。



来年度へ向けて

以下に示したアンケートの結果からも、読書を楽しめずにいる子どもの中に、本の世界に親しむ以前の「入力」の段階での課題を抱えている子どもがいることが予想される。

実際に、マルチメディアDAISY図書やリーディングトラック（「わいわい文庫活用術1」41ページ参照）の活用を通して、「読みやすさ」が支えられることで、興味のある本を探して読書を楽しむ姿が見られるように

なったり、図書館へ来館することが増えたりする子どもたちが複数いた。

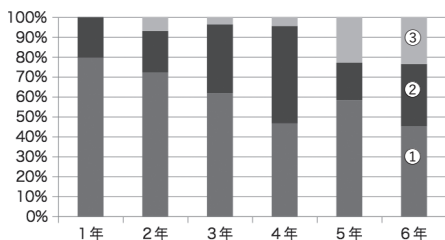
そうした、「読みやすさ」を支える手立てをいくつか用意したことで、「学校図書館には来たけれど何もせずうろうろしている」といった状態の子どもが少なくなっている。

今後も、本の世界を紹介するという従来のアプローチに加えて、マルチメディアDAISY図書のような、そこにアクセスすることを支える手立てを行ってきたい。

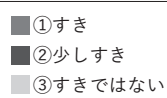
また、Cさんのようなケースから、物語だけでなく、総合的な学習の時間のテーマとしてよく取り上げられる、「平和学習」や「福祉」や「ふるさと学習」などに関する書籍も、ぜひマルチメディアDAISY化していただけると、読みに苦手さのある子どもたちも、自分自身の課題として学んでいくチャンスが広がるのではないかと感じている。

赤江小、読書アンケートより

Q. 本を読むのは好きですか？



▶学年が上がるごとに「好きではない」の割合が高くなる。

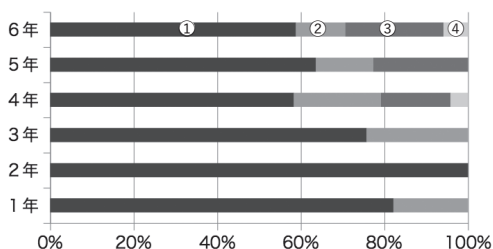


Q. あなたが本を読むのが「あまり好きでない」「きらい」なのは、なぜですか？

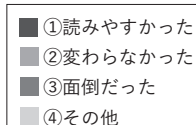
理由	5年	6年
①おもしろい本にであつたことがないから	4	0
②どんな本を読んだらいいのかわからないから	2	1
③文字を読むのがめんどろだから	6	8
④目が疲れるから	4	0
⑤集中できなくてイライラするから	4	0
⑥楽しくないから	2	0
⑦本より映像の方が好きだから	9	6
⑧読んでも意味がわからないから	4	1
⑨読んでもらうのは好きだけど、自分で読むのは好きではない	3	1
⑩その他 ()	1	1

▶「本」との出会いの問題より、文字を読むことにしんどさを感じていたり、映像に比べて抵抗感が高いと感じているケースが多い。

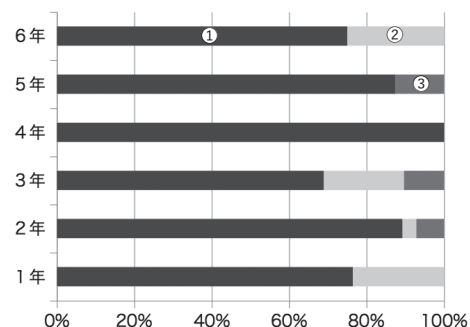
Q. リーディングトラッカーを使ってみてどうでしたか？



▶「読みやすい」と感じる子が、かなりの割合でいる。



Q. マルチメディアDAISYを使ってみてどうでしたか？



▶「おもしろかった」と感じる子が、かなりの割合でいる。

